

下仁田・ウエールズ交流へ動き

製鉄所・名産ネギが結ぶ縁

製鉄所と名産のネギの縁で、下仁田町と英ウエールズとの国際交流に向けた動きがはじまっている。将来の姉妹都市など地域間交流への期待を寄せる声も出ている。

間を取り持ったのは、群馬にまつわる時代小説を執筆している埼玉県上尾市在住の作家たなか踏基さん(71)。2月に下仁田町の中小坂鉄山跡をテーマにし

作家たなかさん橋渡し

た時代小説「鷲の笛―中小坂鉄山秘聞―」を出版したたなかさんは、「英国人技師らにより国内初の洋式高炉が建設された中小坂鉄山の手本となった製鉄所を調べたい」と、産業革命発祥の地、英国への訪問を計画。先月下旬に、金井康行町長の親書を携えて、世界遺産となった英ウエールズの著名なブレナボン製鉄所を訪問した。



たなかさんが下仁田町から土産として持参した下仁田ネギをかたどったボールペンを見せると、現地の役人が強い関心を示したという。聞けば、下仁田ネギと姿形もそっくりな西洋ネギ(リーキ)がウエールズの特産品で、ウエールズの旗に用いられた緑と白はネギの色をシンボリズム化したことが分かり、ウエールズ側から強い交流の申し出があったという。

① 地方政府幹部に下仁田町長の親書を手渡す、たなか踏基さん(右、英ウエールズのアレナボン製鉄所跡で)
② 中小坂鉄山のモデルとなった世界遺産のブレナボン製鉄所跡―いずれも、たなかさん提供

経緯を聞いた金井町長は、「意外な縁。大いに研究する価値がある」と話しており、強い関心を見せている。

バス会社監査に第三者機関

違反を見つけた場合は国交省に通報し、同省が改めて